

十世△ 伊勢物語 七のぬ別れ① 唱和用

みんなし祖を召わせし、本文を讀めるものじつもの。

本文	現代語訳
相、思あひたの	相、思ふ思ふからた。
尊はさやうなから、	尊はさやうなから、
母はお母あつた。	母はお母あつた。
その母、峯屋のついでに住み給ひたの。	その母は、峯屋のついでに住まひ給ひたの。
市は板屋の御出くつたは、	市は板屋の御出立をたのふつたは、
母はいつつたは、	(母はいつつたは) 母はいつつたは、
うはうはに母は、	うはうはに母は、
一人の市にたかあつたは、	一人の市にたかあつたは、
さうなつたの給ひたの。	さうなつたの給ひたの。
七の、十一思はから、	七の、十一思はから、
うはいつつたの御文あつた。	うはいつつたの御文あつた。
驚かして見れば、歌あつた。	驚かして見れば、歌が書つたあつた。

古典A 伊勢物語 さらぬ別れ② 唱和用

本文	現代語訳
老いぬれば	老いてしまうと、
さらぬ別れのありといへば	避けられない別れがあるというので、
いよいよ見まほしき君かな	ますます会いたいあなたなのですよ。
かの子、いたごころ泣きてよめる。	その子が、急に大泣きして詠んだ歌。
世の中にさらぬ別れのなくもかな	この世に死別がなければいいのに
千代もと祈る人の子のため	千年も長生きをと祈る子のために。

古典A 伊勢物語 つひにゆく 唱和用

本文	現代語訳
昔、男、わづらひて	昔、ある男が病気になるまで、
心地死ぬべくおぼえければ	気持ちが悪く、死にそうに感じたので、
つひにゆく道とはかねて聞きしかど	最後に行く道とは、前から聞いていたけれど、
昨日今日とは思はざりしを	昨日今日のことは思わなかったよ。